

国際ボランティアとわが国、そして私—多様さを増す人間行動

福島県立郡山北高等学校 木田 清人

〔多様化する国際交流のひとつ、ボランティア〕

2002年度からの新学習指導要領の地理Aの学習内容として、「多様さを増す人間行動と現代世界」という項目が設けられた。そこには「世界各地の消費や余暇に関する行動、観光、ボランティア活動などに関する資料の収集、分析などを通して、世界の人々の多様化する行動を地理的環境と関連付けてとらえさせる。」と明記されている。

なかでも日本人にとって新参の行動様式と思われるボランティアを地理学習の一項目として位置づけたことは、主体的に世界に関わろうとすることが求められていて、かつ多様な“マイ・ウェイ”が容認されている現代の高校生にとって意義深いことである。この背景には非政府組織ボランティア団体の国際社会での発言力がその行動や成果にもなまって増してきたこと、そして国際ボランティアというものが、ひとりの人間の生き方に決定的な影響を与えるのに十分なものとして認識されるようになったことが考えられる。

以下、国際ボランティアをテーマにした授業実践の試案を考えてみたい。

〔国際ボランティアを調べる授業展開〕

①国際ボランティア、イメージの表現

授業の導入では、「国際ボランティア」という語句についての生徒の認知度や、生徒間でどの程度認識に差があるのかなどをはかる必要がある。大きめの付箋紙を配布し、単にボランティアといったときの言葉の意味についての質問など基礎的なことから、「国際」と冠された場合の活動イメージ

など、精選した質問に対して答えををマジックペンで思いつくままに、しかしできるだけ具体的に書かせる。そしてその付箋紙を集約し、似ている回答をグループ分けするなどして教室全面に張り出すようにすると、生徒たちは自分の回答がどこに位置しているのか、他人はなにを考えているのかが一目瞭然に分かり、教師も学級ごとの傾向をすばやく把握できる。

②国際ボランティアの具体例の提示

国際ボランティアについての生徒のイメージ表現に対する一つの答えとして、具体例を提示することが次へのステップになると思われる。視聴覚教材に慣れた彼らに対しては、VTRなどの利用が効果的だと思う。ビデオソフトは、著名なボランティア団体ならプレゼンテーション用として作成している場合が多い。(財)国際ボランティア貯金普及協会では、さまざまな分野での国際ボランティアを紹介するVTRを作成し積極的に貸し出している。これらを利用すれば、なんのイメージもわかかなかった生徒たちへは一定の基礎を提供することができ、次のステップへと進みやすくなる。

表1 国際ボランティアを紹介するビデオソフトの例<2000年作成>
(財団法人国際ボランティア貯金普及協会制作)

| タイトル | 内 容 |
|------------------------------|--|
| こんにちはNGOアジア編① ネパール・カンボディア | ネパールの山岳地帯での教育、カンボディアでの農村開発の支援活動の紹介(21分) |
| こんにちはNGOアジア編② ラオス・インドネシア | インドネシアでの巡回保健衛生指導員の育成、ラオスでの学校施設の改善と住民と一体となってめざす活動の紹介(21分) |
| こんにちはNGOアフリカ編 タンザニア・ケニア | 現地住民と協力しながら活躍するNGOスタッフの姿の紹介(23分) |
| こんにちはNGO中近東・南米編 ボリビア・ガザ | ガザ地区での視覚障害児のための教育、ボリビアの保育園での保育士の育成に努める活動の紹介(23分) |

③国際ボランティアを調べる

授業において一方的に情報を与えるだけでなく、

生徒の内面に訴えかけるためには、みずから国際ボランティアについて調べ、本質を見抜く力を養成することがポイントとなる。

A どうやって調べる？

生徒たちを班に分け、アイデアを出させる。教師からの手助けとしては、郵便局の冊子「国際ボランティア貯金2002」を班に1冊以上配る。そこには国際ボランティア貯金の資金を受けている非政府組織団体について、事業の実施国、事業概要、配分額、実施状況、問い合わせの電話番号がまとめられている。また、団体によっては活動のようすを写した写真や現地で活動している人の声も記載されていて高校生でも十分に使いこなせる資料となっている。なかには、青年海外協力隊など各種の国際ボランティア団体のホームページにアクセスするという生徒も出てくるだろう。

表2 国際ボランティア貯金の地域別配分状況 (2001年度)

| 地域 | 金額 (およそ) |
|-----------|----------|
| アジア15か国 | 46億円 |
| アフリカ15か国 | 10億円 |
| 中近東3か国1地域 | 2.3億円 |
| 中南米5か国 | 2.1億円 |
| 欧州4か国 | 5.6億円 |
| オセアニア2か国 | 0.4億円 |

総務省郵政事業庁貯金部管理課(2002)：「国際ボランティア貯金2002 未来へつなげる世界中の笑顔 - Smile, Future, World -」より作成

B テーマ設定のポイント

班での話し合いや、うまくリードしてくれる生徒の活躍などで、ある程度調べる糸口をつかませたらそれぞれの班ごとにテーマを絞らせる。

予想ではあるが、こんなテーマを設定してくると考えられる。

- どの国や地域でボランティア活動をしていることが多いか？
- どのボランティア活動が行われているのか？ など国際ボランティアを概観しようというものや、
- 「ストリートチルドレン」「難民」「HIV感染者」「ポリオ患者」「山岳少数民族」とは？
- 「女性」「子ども」支援が多いのはなぜだろう？

というような援助対象者についての基礎的な疑問をテーマとする班も現れるだろうし、

- 「砂漠化防止の植林」「マングローブ植林」「左官技術指導」「井戸掘り」「織物技術指導」ってどういうことをしているんだろう？

というような、生徒たちにはなかなか想像できないような支援内容に着目する班も現れよう。

このようにテーマを決めさせたら、そのテーマに沿って発表に向けて調査をはじめさせる。

C 調べてわかったことのみとめ・発表

班別に、模造紙などに「国際ボランティア新聞」などの名称でまとめさせる。テーマをはっきりと明示させ、どのように調べ、どんな活動がなされているか、支援される人たちはどういう境遇なのか、支援する人たちはどんな苦労があるのか、など張り出させる。さらに自分たちの感想や活動している団体の人とのインタビュー記事などあればさらに発表に磨きがかかったものになると思われる。

また、教師からのコメントとして、地図帳の資料などを活用し、ボランティアとして派遣されている地域や人数のかたよりなどを班ごとに調べたものを比較させ、その理由を地理的に考えさせたり、その国の貧困や環境破壊の発生要因を地理的データを使って考えさせ、それを乗り越えていくための自立を助けるという支援のあり方を考察させたい。

【国際ボランティアと私】

生徒一人ひとりが「国際ボランティア」を通して、これから生きていかねばならない人生を直視できるようになればしめたものである。生徒がこの授業を通してなにか「行動」を示しはじめたら、それに応えられるようにしてあげたい。世界の中で望まれて生まれてきた“私”が羽ばたくことができるように。